

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	(仮称) 相模原市DX推進計画策定検討委員会【書面会議】		
事務局 (担当課)	DX推進課 電話042-769-8212 (直通)		
開催日時	令和7年9月1日(月)～令和7年9月8日(月)		
開催場所			
出席者	委員	5人(別紙のとおり)	
	その他		
	事務局		
公開の可否	<input type="checkbox"/> 可 <input checked="" type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	—
公開不可・一部不可の場合は、その理由	書面会議にて実施のため		
議 題	1 議事 (1) (仮称)相模原市DX推進計画案について		

## 議 事 の 要 旨

<p>1 議事</p> <p>(1) (仮称)相模原市DX推進計画案について</p> <p style="padding-left: 20px;">主な意見等については、別紙のとおり。</p> <p style="padding-left: 20px;">なお、各意見等に対する回答は、次回会議にて行うこととした。</p>
---

(仮称) 相模原市DX推進計画策定検討委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	飯島 泰裕	青山学院大学社会情報学部教授	委員長	出席
2	及川 葉月	株式会社エージェント 自治体DX事業部 事業責任者		出席
3	小山田 隆貞	株式会社 きらぼし銀行 連携推進部 次長 (兼任 東京きらぼしフィナンシャルグループ 連携推進部公共連携推進室 室長)		出席
4	八木 彩夏	NTT 東日本株式会社 東京事業部 ビジネスイノベーション部 ビジネス企画グループ		出席
5	渡邊 将文	株式会社MEMOテクノス代表取締役		出席

No.	該当箇所	意見等	委員名
1	p.5	フレーム編とアクションプラン（アクション編）の関係性を表現している図に若干違和感を覚える。フレーム編は基本的な指針、思想について語る書面であり、アクション編はその具体的な内容、スケジュール、成果目標を表現したもので、同時に発行される本体資料にあたるものと認識している。矢印で表現することで時間軸もしくはフローを思わせる印象がある。また、フレーム編とアクション編は同時に発行され、両者を俯瞰できるダイジェスト版も必要と考える。	渡邊委員
2	p.7	「国における…経過」の下部分にある「緑の文字の反映・具体化→」と「グレーの文字の更新・改訂等→」が一見ただけだとわかりづらいため、→の横に小さく「改訂」「具体化」などの補足を添えると良いのではないかと。	及川委員
3	p.7	「官民…基本法施行」から「相模原市ICT総合戦略」にグレーの点線が伸びているが、これは更新・改定等よりは反映・具体化だと感じる。	及川委員
4	p.7	点線と実線の違いについても記載があるほうが良い。	及川委員
5	p.8	年齢3区分による人口推移（左図）について、棒グラフは割合ではなく、実数の方が良いのではないかと。	飯島委員長
6	p.11	「DXへの3ステップ」について、経産省の図を参考にしていると思われるが、参考などの間接引用の文言は不要か。	及川委員
7	p.12	下図の業務本位と住民本位について、それぞれイラストがあった方が良い。	飯島委員長
8	p.15	「市民～多様な主体と協働し」と記載すると行政が協働するという意味になるため、「住民本位の～」とするならば「市民、企業、大学など多様な主体が協働し」と表現する方が良い。	小山田委員
9	p.15	「協働」と「先進技術」による地域課題の解決の説明について、冒頭に、「市役所」を入れるべきではないかと。	飯島委員長
10	p.16	現状や課題に対しての本計画の取り組みとなっており、素晴らしいと感じた。検討して、可能であればイラスト入れた方が良い。	飯島委員長
11	p.16	用語集を添付するにしても、できれば用語集を見なくても分かる表現にすべきである。「日中は市外で勤務されている市民が多く、ベッドタウンとしての特徴を有します。」等の平易な言葉で代替可能であれば検討した方が良い。	小山田委員
12	p.16	課題の抽出までのストーリーは流れがよくわかる一方、その後の基本方針と推進体制にどう反映されているのかが、見えづらい印象。課題の受け皿はどのように帰結させる意図か。	渡邊委員
13	p.18	ロードマップについて、これだと9割方DXが完了しているように見えてしまう。R8のDXの総和が1/3程度からスタートして、R9終わりでは半分程度、R12で9割程度とした方が良い。 また、「地域DX」の方を優先するため、「地域DX」が一番上に来るようにした方がよい。	飯島委員長

No.	該当箇所	意見等	委員名
14	p.23	業務イノベーション・DX推進会議の構成員について、相模原市職員の誰が担うことになるのか。また、庁内業務DXに限った推進会議となるのか。	八木委員
15	p.23	情報通信技術・先端技術活用推進担当は、具体的にどの担当課が担うのか。	八木委員
16	p.23	庁内・市民向かいのDX推進の旗振り役は誰になるのか。 DX推進課が全庁的な推進の旗振り役であると考えていたが、体制図においてはあくまで各担当課から支援依頼・相談があった際の対応を実施するように見えた。 DX推進に積極的な担当課に対しては、この体制でも問題ないと感じるが、これまでのやり方から変わること拒否感・嫌悪感を持つ職員や担当課もあると思われるため、トップダウンで落とし込む、またはDX推進課が旗振り役としてDX推進を強力に先導する等の体制が必要と感じる。	八木委員
17	p.24	進捗やアクションプランに対する評価については、別途資料にまとめて公表があるという認識で良いか。	八木委員
18	p.24	アクションプランの振り返り時には、市民や関係人口からの意見収集も検討しているか。	八木委員
19	p.27	「・ビジョンごとに、本計画において重点的に～」を 「・令和9年度までに取り急ぎ重点を置いて～」とした方がよい。	飯島委員長
20	p.27	「重点テーマ」は、「重点施策」とすべきではないか。	飯島委員長
21	p.27	地域DXに使用している緑色は、計画の大部分で使用している色のため、黄色など、別の色に変えた方がよい。	飯島委員長
22	p.34	「魅力向上を図ります」がかかる箇所は「地域」かと思う。「教育のデジタル化」は「教育の質の向上」の方が、「産業分野のデジタル化」は「生産性の向上」の方が良い。それらを包括して「地域の魅力向上」かと思うが、原文だと教育・産業のデジタル化と魅力向上という言葉に少し違和感を感じる。	小山田委員
23	その他	相模原市の課題抽出を行った結果、解決の取り組みとして行政DXと地域DXというカテゴライズを行うこと自体が行政とそれ以外という誤解を与えると感じる。行政主体で実施するDXと地域に任せるDXという誤解を持たれると、そこに主体性は誰が担うのか。というややこしさが生じると懸念している。実際本書において地域DXにおける記載内容は薄いと言わざるを得ない。アクション編は地域DXの内容を明確にしないと上記の懸念は深まるのではないか。	渡邊委員
24	その他	フレーム編とアクション編は同時発行されると思うが、アクション編の編纂進捗はどのような状況か。	渡邊委員
25	その他	今後アクションプラン公表時に、各取組を推進する所管部署も合わせて公表となるという認識で良いか。	八木委員